

# 3・11 現在・未来

3・11 14・46

東日本大震災が発生したのは、ちょうど幹部職員をメンバーとする月例の会議を開催している時でした。

「庁内にはスチール製のロッカーが多い。地震の際に崩れないよう整理整頓を心掛け、市民はもとより職員の安全確保にも気を配るように」。偶然にも私がそう話している最中でした。

立ってられないほどの激しい揺れの中、出席していた幹部職員たちは出口を確保しようとドアを開けたり、落下物や窓ガラスに注意するよう呼び掛け合ったり、机を押さえたりと、それぞれ冷静に行動していました。突如の事態にも慌てたり取り乱したりすることなく対処する姿に、「職員は皆、常日頃から災害に備える心構えができています」と実感しました。

そして幹部職員が揃っていたその場で即座に「災害対策本部」を立ち上げました。

「1時間以内に情報を把握して、17時からの本部会議で報告すること」——これが最初の指示でした。

塩竈市長 佐藤 昭

## 支援への感謝

未曾有の自然災害から4年となります。

この間、人命救助、道路や海上の啓開、生活支援、業務支援、物資提供、激励と、物心両面にわたって、塩竈市はさまざまな方面から手を差し伸べていただきました。

国内はもとより海外在住の方々、自衛隊や消防、警察、海上保安本部ほか関係機関、災害時相互支援協定を締結している自治体をはじめとする公共団体など、本当に多くの方々からご支援をいただきました。

そして、現在も全国の自治体から職員の派遣を受け、復旧復興に係る業務で力を発揮していただいています。

こうしたご支援の数々に、言葉で言い表せないほど感謝しています。

# 新たな誓い

私は宮城県に奉職中、土木技術者として各地の防波堤や防潮堤の整備に長らく携わりました。明治三陸地震の津波や昭和35年のチリ地震など過去のデータに基づいてそれらを設計し、住民の方々への説明会では防御力は万全であると訴えました。当時は「これで地域と人々を守る」と信じて疑いませんでした。

しかし、大震災の大津波は事前の想定を超える規模で襲い、地域と暮らしを破壊し、尊い命を奪いました。手掛けた防波堤や防潮堤が一定の効果を発揮したことは事実なのですが…。震災後、「自然災害は構造物で克服できる」との考えは驕りではないかと、自らに問い掛けました。そして、「構造物による災害対策には限界があることを生涯忘れまい」と、誓いを新たにしました。

## 命を守る一助に

この『塩竈市東日本大震災 復旧・復興の記録』は、市民や市職員、関係された方々の記憶を風化させることなく後世へ伝えるための被害と復旧・復興の記録です。

掲載されている事柄、話題の一つひとつが、防災・減災への意識と備えの大切さを忘れないための「知恵」となって、次の災害が発生した際に一人でも多くの方々の命を守ってくれることを願っています。

## 市民の方々へ

塩竈は古くから海や港とともにあり、多くの先人がそこに生業を求めて暮らしてきたまちです。『塩竈市復興計画』でも、「長い間住み慣れた土地で、安心した生活をいつまでも送れるように」と謳い、現地再建を基本としました。その一方で、今後、再び大津波などの自然災害に襲われることがあるかも知れません。

市民の皆さんにご理解いただきたいのは、「防潮堤などによる防御には限界がある」ということです。「何メートルの防潮堤があるから大丈夫」といった過信は禁物です。

何よりも優先されるべき行動は「避難」すること、それを胸にしっかりと刻んでいただきたいと思えます。



平成23年3月16日、浦戸中学校・浦戸第二小学校避難所にて震災後初めて自衛隊のヘリにより浦戸に渡った市長が、帰省中に被災した赤ちゃんを抱きあげた

プロローグ

2011.3.12 新たな始まりの朝から。…………… 1

東日本大震災の記録

塩竈市の被災状況について…………… 2

発刊によせて

3・11 現在・未来

塩竈市長 佐藤 昭…………… 12

寄稿

塩竈へのエール

「しおがま文化大使・しおがま産業大使の方々から…………… 16

全国から寄せられた支援

全国から寄せられた支援への感謝

「広がる地域間交流の輪…………… 18

全国から塩竈市へ

職員を派遣していただいた地方自治体・機関…………… 22

派遣自治体職員の方々からの応援のメッセージ…………… 24

震災以降の歩み 3・11 現在・未来

3・11から約4年間の記録…………… 48

◎震災発生と初動期の対応  
想定外の事態に直面して

「塩竈市災害対策本部の設置…………… 56

関係機関の強力な支援

「消防・警察・自衛隊・海上保安本部…………… 58

◎避難所（本土地区）

最大避難者数 8771人

「想定以上の2倍以上の市民が避難所へ…………… 60

◎災害廃棄物処理

「がれき処理から始まった復旧の第一歩…………… 64

「家庭ゴミ収集は継続……………

PHOTO STORY

しおがま 過去・現在・未来…………… 28

◎塩竈市東日本大震災記録誌作成事業  
関連ワークショップ…………… 34

街の記憶

I 海岸通、やみ市横丁界限…………… 46

II 本町、宮町…………… 63

III 港町…………… 158

浦戸諸島 いま・むかし

あの日、浦戸の島々は「自然の防波堤」となった…………… 90

時代の記憶・記録 災害を乗り越えて…………… 92

「海と地の豊かな恵みの中で——浦戸地区の歳時記…………… 94

懐かしき風景——震災前の浦戸地区…………… 96

昭和35年チリ地震津波と復興の記録・記憶…………… 110

◎復興事業地区（浦戸地区）  
浦戸の明日

「復旧・復興・未来…………… 98

◎「仙台塩釜港」塩釜港区

再認識された天然の良港への期待

「国際拠点港湾「仙台塩釜港」塩釜港区の将来像…………… 114

◎漁業・水産業・水産加工業  
基幹産業の礎づくり

「水産業・水産加工業の復旧・復興…………… 116

◎商工業

街のにぎわいを取り戻すために

「商工業の復旧・復興…………… 120

震災後に芽生えたもの

I G A M A R O C K ..... 26

II 「わせねでや」 ..... 112

III 「震災の記録碑」 ..... 156

平成26年度塩竈市総合防災訓練 ..... 140

そして明日へ／被災市民・団体・NPO ..... 142

東日本大震災体験文集

「塩竈っ子へ」より ..... 150

座談会

「塩竈は何度でもよみがえる」 ..... 192



平成26年3月11日、京都の桜守「第十六代佐野藤右衛門」氏との縁で津波到達地点付近に植樹された「浪分桜」



資料編

東日本大震災の津波における課税免除区域 ..... 160

各部所管の公共施設、その他施設の被災状況について ..... 161

塩竈市震災復興計画 ..... 168

「塩竈市地域防災計画」の改訂

↳ 震災の経験と教訓を次の災害への確かな備えに ..... 176

義援金、支援物資 ..... 178

指定避難所における災害対応調査 ..... 180

◎ アンケート

東日本大震災における塩竈市自主防災組織の活動調査結果(抜粋) ..... 190

◎ エピローグ

「自然の力を 心に刻み 未来を見つめ 塩竈に生きる」 ..... 200

◎ 上水道

全市断水からの復旧

↳ 16日目に本土地区通水完了 ..... 66

◎ 下水道

より水害に強い塩竈を目指して

↳ 下水道の復旧と整備 ..... 70

◎ 陸上交通

人と物の動線の確保

↳ 復興の一環として進む道路整備 ..... 72

◎ 海上交通

よみがえった浦戸地区の生命線

↳ 塩竈市営汽船の復旧・復活 ..... 74

◎ 応急仮設住宅・災害公営住宅(本土地区)住宅再建の進行

↳ 応急仮設住宅と災害公営住宅の現状 ..... 76

◎ 復興事業地区(本土地区)

塩竈の未来の都市像を描く

↳ 津波浸水地区の復興に向けて ..... 84

◎ 観光

塩竈の魅力を全国へ

↳ 観光による交流とにぎわいの創出 ..... 124

◎ 医療機関

市民の健康と生命を守る

↳ 塩竈市立病院の復旧・整備 ..... 126

◎ 福祉・ボランティア

生活とコミュニティの再建

↳ ボランティア支援と保健・福祉の機能回復 ..... 128

◎ 議会(市議会議員団)

復旧・復興へ全議員一丸となって

↳ 「全員協議会」で迅速な意思決定 ..... 130

◎ 学校

避難所から授業再開へ

↳ 教訓と経験を伝える場として ..... 132

◎ 塩竈市の防災への取組

反省と課題を次の備えに

↳ 塩竈市の防災への取組 ..... 136